

知恵の樹

No. 159 2011. 6. 15

町田の図書館活動を
すすめる会

事務局：町田市森野 3-1-12 増山方
〒194-0022 FAX 042-722-1243

町田市立図書館長 就任にあたって

図書館担当部長兼図書館長 尾留川 朗

このたび、図書館担当部長兼図書館長に着任いたしました、尾留川 朗(びるかわ あきら)です。図書館は初めての職場になります。どうぞよろしくお願いいたします。

自己紹介を兼ねて、主に私の市役所入職以降の業務歴から紹介いたします。

市役所入職は、1977年(昭和52年)4月です。税務部資産税課に配属となり、その後11年間所属致しました。その間、手がけた主な業務は、当時委託だったコンピュータシステムの改良、土地評価の基本となる航空写真をベースとしたデジタルマップの導入、農地認定基準の作成、土地評価システムの開発などがあります。

1988年(昭和63年)4月、企画部に異動し、情報処理開発準備室及び情報システム課で、13年間、町田市総合行政情報システムの企画および開発・導入に従事しました。1989年11月稼働の住民基本台帳システムを皮切りに、国民健康保険システム、国民年金システム、体育施設予約システム、市税滞納管理システム、財務会計システムなどの開発、導入に従事しました。この間、当時の行政管理課に協力する形で、行政評価及び公会計についての研究、導入計画化にも携わりました。図書館システムについても、中央図書館建設準備時から関わっています。

2002年4月企画調整課へ異動し、5年間従事。行政評価制度の導入、公会計制度の検討、町田

市基本構想、基本計画(案)(長期計画)策定などを手がけました。その後、2007年4月経済観光部へ異動し、2年間従事。産業振興条例の制定、産業振興基本計画、観光振興計画の策定、町田市観光コンベンション協会設立や日本フットパス協会の設立などを手がけました。

2009年4月地域福祉部へ異動し、2年間従事。この間も、社会福祉協議会との協働のあり方基本方針策定及び協働事業の実施、精神関連法人による協働事業の調整、福祉の街づくり条例改正、地域福祉計画、障がい者計画策定、未整理だった例規の整備を実施しました。

これらをお読みになってわかるとおり、入職以来、同じ職場を経験していないこともさることながら、巡り合わせなのか、多くの人に助けられながら、常に新しい取り組みや改革、改善を行い続けた仕事人生です。

図書館では、現在、図書館協議会において図書館理念のあり方を、本年6月を目途に答申を頂くこととなっています。今後、その答申に基づき、新たな図書館運営を検討することとなります。しかし、繰り返しになりますが、私にとって、図書館運営は初めての経験です。まずは、職員との対話を深め、何を達成するのかの具体的なビジョンや付加価値を生み出せる活動のあり方について共有化を図っていきたくと考えています。今後ともご指導よろしくお願い致します。

町田市における「子どもの読書環境の向上を図る」事業を終えて ～見えてきたもの～

市内公的機関の読書ボランティア活動状況

NPO法人 まちだ語り手の会代表 増山正子

昨年(2010年)度、「独立行政法人福祉医療機構」の助成金を得て、表記事業を実施した。事業計画の発端は、市民(ボランティア)との協働を強かに謳って推進していこうという町田市の第二次読書活動推進計画(2010年度より5カ年間)が策定されたことによる。(本会報関連記事=142号(2009.9)、144号(2009.11))
どういった読書ボランティア(以後ボランティア=「おはなし会」等で活動をしているボランティア)が何処でどのような活動をしているのかが分からない状態で、ボランティアとの協働は可能なのか? 「自ら進んで本を読む子を育てる」という基本理念の下に盛り込まれている3つの目標「子どもが本と出会うきっかけ作り」、「いつでも身近なところに本がある環境作り」、「子どもの読書に関わる人の配置と育成」は、ボランティアの活動実態が分からない状態で推し進めることが出来るのか? この計画が少しでも実りあるものにするには、NPO法人として我々にできることは何か、を考えて企画し取り組んだ事業であった。

この事業では、市内すべての子どもたちが、身近に本に接する場所があり楽しい本の世界に案内してくれる人がいる読書環境を整えることを目的に、①市内の公的機関で受け入れているボランティアの実態とボランティア活動のアンケート調査を行い、現在ボランティア活動をしている人、今後活動を希望している人を対象に、②全体講演会「本が死ぬところ暴力が生まれる」(講師:杉本卓氏)、③市内5地域(中央、成瀬、玉川、忠生、相原)の公的施設における4回連続ボランティア講座を実施。このことにより、現在の地域の子ども読書環境・読書ボランティアを把握し、地域の子どもたちがいる公的機関での連携をはかりながら、町田市における第二次読書活動推進計画が少しでも推進できることを期待してのことである。

事業の全容は、3月に発行した[報告書]に掲載しているが、ここでは、①「読書ボランティア活動状況」について行ったアンケート調査結果についての概要をお知らせしたいと思う。

読書ボランティア活動状況 アンケート調査 <結果>

町田市の全公的機関(232施設)を対象に、学校関係と学校関係外とに設問を分けて行った。

【学校関係】は、公立・私立全小中高校83校に配布、回答率は77%で、64校(小38校/44校、中20/24、高校4/9、特別支援校2/6)より回答を得た。そのうち**ボランティアを受け入れている学校**は、64%(41/64校)で、その殆どが小学校に限られ、中学校ではわずか6校、高校は皆無であった。受け入れのできない理由としては、学内の体制が整っていない、読み聞かせに割く時間がない(中学校)などのほか、独自に行っているため外部からの導入は考えていない(私立)などの回答がある。

受け入れについての要件は、わずかに15%(6校=小校、中2、特別支援校1)が「子どもが好き」「児童の保護者」「学校支援ボランティアとして」などをあげている。**受け入れのきっかけ**(複数回答)は、教育の一環として56%(23校)、保護者からの申し出34%(14校)、その他図書指導員からの申し入れ(2校)、不明・以前からの引継ぎ(各1校)など。**受け入れの窓口**(複数回答)は、図書館担当教諭(または司書教諭)が一番多く、図書指導員、クラス担任、副校長などもそれぞれ一定程度いる。

受け入れの時間帯(複数回答)は、授業時間内59%(24校)、始業前49%(20校)で、始業前や放課後はほとんど10分~20分間との回答が多い。また夏休みの開校時や週1回放課後などのケースもある。

受け入れボランティア(複数回答)は、小学校の74%(25校)が児童・生徒の保護者・学校関係者といった個人ボランティアで、団体での受け入れは30%(11校)。1学校1団体の外部ボランティアの受け入れが全体の74%を占め、その学校の保護者やPTAでの読み聞かせグループが9校、両方のボランティ

アを受け入れている学校が5校ある。また**活動内容**(複数回答)は、絵本の読み聞かせ 83%(34校)、ストーリーテリングやブックトークは30%前後とやや少ない。

【学校関係外】は、全幼稚園・保育園・学童保育、図書館や子どもセンターなど148施設に配布し119施設(幼稚園30/37園、保育園44/56園、学童保育32/42施設、その他＝市立図書館・文学館・子どもセンター・ひなた村13/13)より回答を得た(回答率80%)。

ボランティアを受け入れているところは39%(幼稚園7/23、保育園16/28、学童保育11/21、図書館など12/13施設)で、特に図書館や子どもセンターのほとんどが、学童保育のほぼ半数が受け入れているのに対し、幼・保などでは保育士による絵本読みが定着しており受け入れは少ない。**受け入れのきっかけ**(複数回答)はボランティアからの申し出が多く(特に図書館等・保育園)、幼・保・図書館などでは施設の方針、幼では保護者からの申し出(4園)もあった。**活動**のほとんどは絵本の読み聞かせとストーリーテリングが多く「手遊び・わらべ歌ほか」には、パネルシアター、人形を使ったお話、紙芝居なども含まれている。

受け入れの要件に関しては、約49%の施設が要件ありで、「図書館など」は、「養成講座修了生」「活動の実績」などの資格を85%が必要としている。幼・保・学童の要件あり(34%)は「時間の制限」「無償で」「年長組に限る」などとなり、個人より団体を受け入れているところが多い。

【ボランティアの課題・問題】についての自由記載の主なもの以下のとおりである。

- ・保護者ボランティアは無償なのでお願いできるが、有償の読書ボランティアは難しいのが本校の現状
- ・授業時間を使つての語りをきくおはなし会は子どもたちにとって心豊かになる貴重な時間だが種々の学校行事などで日程を組むのが年々大変になってきている。
- ・保護者の方にはなかなか「読み聞かせ」等の研修の機会がないので、研修の場があると良い。
- ・中学校での読書ボランティアの活用の例があるようなら、うかがいたい。
- ・導入に当たっては、活用方法、受入態勢等の検討が必要。
- ・読書ボランティアの存在を今まで知らなかった。近くの保育園に読み聞かせに行く高校生(図書委員)対象にやっていただいてもいいかなと興味がある。(私立)
- ・“読書が好き”という子どもたちが少なくなった現在、本に親しみをもつという意味でも大切な活動。
- ・ゲーム等に目が行きがちであっても、やはり絵本や素話は何ものにも替えがたい魅力があり、幼児にとって大切な世界と考えているが、制限のある保育時間の中で定期的にといかないのが残念。秋以降の活動(特に土曜午前中)に取り入れたいとは考えているが…。読書の重要性を痛切に感じる昨今の世情です。
- ・知らなければ知らないで通り過ぎてしまう絵本の世界。1つでも多くの物語に出合ってほしい。お話会の回数を重ねることで、人の話が静かに聞けるようになった。保護者に読書の大切さを啓蒙していきたい。
- ・読書ボランティアの存在を知らなかった。今後取り組みたい(複数)。
- ・聞く子どもたちの年齢や聞く力に合った内容の選定を。特に素話をされる方をお願いしたい。
- ・保育方針が、カリキュラムを作らず、子どもの主体性を大切にすることなので、読み聞かせの日とか、おはなしを聞く時間を決めて押し付ける事はしない。

【ボランティアの活動実態】は、公的機関でのボランティア団体名は個人情報ということで殆どの施設が記載していなかったため、図書館の登録団体他、講座を受講された方々へのアンケート調査に留まった。講演会・講座内容の詳細は、各図書館に配布の「報告書」をお読みくださればと思う。また、お求めになりたい方は、まちだ語り手の会事務局 TEL&FAX 042-795-3022までご連絡を。冊子代(300円)

【終わりに】 この事業は、市立図書館はじめ関連部署の方たちの多大な協力を得ることで、実施することが出来たと言っても過言ではありません。改めてお礼申し上げます。このたび町田市の第二次読書推進計画に盛り込まれている、「第二次町田市子ども読書活動推進会議」が組織され推進に向けて市民の目が向けられる機能がスタートします。この事業報告が、少しでもお役にたつことを願っています。

3月1、2日の市議会定例会で、学校図書館に関する質問をする議員が2名いるという情報を得たので、一般質問をする議員を中心に、各会派の代表に資料を渡し懇談の場を設けてもらうようお願いした。早速予定を組んで下さった会派もあり、効果を実感。すっかり報告が遅れてしまったが「市議会傍聴」の報告とそのあとの会派との懇談の模様をお伝えする。

3月7日森本せいや議員：「学校図書館のあり方について」と題し質問時間の大半を割いて今までになく突っ込んだ質問をしてくれた。2010年の国民読書年、OECDの学習到達度調査の例を挙げ、読解力だけでなく情報処理能力や分析力を育てることのできる図書館環境の整備を責任を持って果たすことこそ、子どもの健やかな発達に資することではないだろうか、と前置きし、学校図書館の蔵書数、文科省の目安(学校図書標準)の達成状況、学校司書をはじめとする学校図書館専任職員の課題などを質問。教育部長の答弁からは、図書標準を達成は小学校で20/41校、中学校で6/20校とまだまだ少ない状況が明らかになり、また「学習・情報センターとしての位置づけ」については、市立図書館の配送サービスとインターネットの利用を答え、ややちぐはぐさが目立った。

さらに森本議員は、蔵書点検(データベース化:小学校11校、中学校8校)、司書教諭の時間軽減、がされていない状況で、学校司書の必要性を強調。また、2008年から図書指導員が学校ボランティアの枠に組み込まれた理由を問うと、学校教育部長は図書指導員制度の拡充の為の予算の弾力化を念頭の為と答弁した。それに対し、森本議員は、全国ではすでに40%の自治体が独自の予算で学校司書を別途配置していることを指摘(荒川区の事例紹介)。その理由を、司書教諭の配置だけでは改善できないと気づいたからではないだろうかと述べた。また、図書指導員の立場の曖昧さを危機管理の面からも指摘した。学校教育部長は、子どもが図書室で怪我をした場合は保険対応できるし、一般教員が図書指導員の立場を把握していないのは、図書指導員が図書室にいることが多いからと答弁。森本議員は、充実した2つの機能を担う、いつでも生徒を迎えることのできる図書館に環境を整えるよう、一足飛びの司書の配置ができないのであれば、それに準ずる形での指導員の研修の充

実や待遇の改善をお願いするとして質問を終了。

3月8日細野龍子議員：「子どもたちにゆきとどいた教育を保障するために」と題して、学校図書館法を引用しながら、町田市の学校図書館の現状はこの法に合致しているかと質問。これに対して教育部長は、学校図書の指導は、司書教諭を中心として、図書指導員に補助的な役割を担ってのことで推進していくことが望ましい、能力や資質の向上を図る為の研修会を毎年2回実施、今後も研修を充実させ、司書教諭及び図書指導員の連携を図ると述べた。これに対し細野議員は、図書指導員が学校ボランティアの枠に組み込まれたことは、将来的に学校司書の機能を備えた制度になると頑張ってきた図書指導員にとって力落としでもあると指摘。図書館教育の充実を今後は是非、町田市として進めてほしいと述べた。

傍聴をして一番強く思ったことは、教育委員会では学校図書館の必要性を感じていない、学校図書館に関して勉強不足であるということだ。危機管理、教員との連携、レファレンスなどなど、正しい認識をお願いしたいし、また他自治体の学校図書館をしっかりと視察してほしいと強く感じた。

3月22日「まちだ新世紀・みんな」との面談：忙しい中を面談の時間を割いて下さったことに感謝したい。こちらから学校図書館の重要性と人の配置の問題をお話した後、それぞれの議員から質問に答える形で、約1時間の面談となった。学校図書館の充実が大切なことに異論はないが、特に人の問題となると先ずもって予算措置が可能とならなければ一歩も進まないことを指摘され、それも十分承知したうえでむしろ議員方からどのような方法で予算化が可能か、教えてほしいと頼んで、面談を終えた。その後岡山を視察したいとの話も聞こえてきて、精力的に動いて下さっていることを心強く感じた。今回の動きをチャンスと捉え、今後とも息の長い、地道な活動を心がけるつもりだ。(報告:水越)

地震と図書館

町田市立さるびあ図書館 手嶋 孝典

3月11日、移動図書館車(BM)で午後の2か所目のサービス・ステーションに行くために休憩していた時に、大きな地震に遭遇した。このコースは、さるびあ図書館を基地としている2台のBMがここで合流して、次のサービス・ステーションに向かうことになっている。

突然、地面がぐらぐら揺れて、私は船酔い状態になってしまった。BMもひっくり返るのではないかと思うほど、激しく揺れていた。

サービス・ステーションでは、ラジオで地震速報を流しながら、通常通り貸出しをしたが、お客さんは極端に少なかった。それもそのはず、ここは高層マンションだったからだ。エレベーターが停止しているため、高層階の住人は降りてくる人は少ないし、余震が続く中を小学校に子どもを迎えに行ったりするお母さんも多かった。18階にある自宅から階段を使って降りてきた人もいたが、家の中は散乱状態とのことだった。

さるびあ図書館に戻る途中、停電している場所とそうでない場所を通過し、奇妙な感覚を味わった。堺図書館のBMは、交通渋滞に巻き込まれてしまい、帰館が相当遅れたようだ。

無事帰館すると、幸いなことに、さるびあ図書館は、壁等に亀裂が入ったものの、大きな被害はなかったようなのでホッとした(これについては、本稿の最後に触れる)。しかし、地震発生後、全館が休館していると聞いて驚いてしまった。

中央図書館は、ビルの4階～6階にあるためか、書架から本が多数落下した。特に書庫(6階)は、本が散乱しているひどい状態だった。その日は、停電と断水が午後11時まで続いたとのことである。他の地域図書館は、壁等の亀裂やタイルの剥離以外に大きな被害がなかった。

翌12日は、地域図書館は、平常どおり開館したが、中央図書館は、館内整理のために臨時休館を余儀なくされた。13日からは、全館開館したものの、

夜間開館は4月15日まで見合わせざるを得なかった。BMは、燃料不足を理由に3月15日から18日まで4日間の運休を強いられた。

震災後、周辺の図書館が軒並み休館していると聞き及んだ。誤解を恐れずに言えば、図書館は行政内部では、不要不急の施設に位置付けられており、それに対して、市民・利用者の反発も余りないことが寂しい。

さるびあ図書館では、震災直後に地震関連の特集コーナーを設けたところ、大いに利用された。原発関係の資料も利用されたが、特集コーナーを設けるほどには蔵書が少ないのは、地域図書館の限界であろう。しかし、政府や東京電力の情報開示が不十分な状況の下、原発関連図書のリクエストは、現在でも切れ目なく続いている。

ともあれ、図書館は非常時にあっても開館していることによって、その役割を果たすことができるのだ。心配なのは、電力需要がピークに達する夏季の開館だが、町田市立図書館は、節電の徹底により、通常どおり開館する見通しが立った。冷房の設定温度を上げるため、熱中症の発症も懸念されるので、冷房については、状況に応じて柔軟に対応することになっている。

ところで、さるびあ図書館の壁に入った亀裂であるが、積層書庫の亀裂はかなり深刻な状態であることが、その後の調査で判明した。たまたま今年度は、さるびあ図書館の耐震診断を行うことになっていたが、壁に大きな亀裂が生じたので、耐震診断の精度を向上させるため、事前に積層書庫の壁を削り取る工事を行うことになった。そのためには、積層書庫の壁面にある資料をすべて移動させる必要があり、その準備に追われている今日この頃である。

* 本稿は、「多摩デポ通信第18号」(特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩 2011年5月5日発行)に掲載したものに加筆、修正したものであることをお断わりします。(会員)



子ども読書推進計画

玉目 哲廉

子ども読書推進計画は、子ども読書推進に関する法律(平成13年12月制定)により、まず国が14年8月に国の基本的な計画を策定し、それを受けて都道府県が作り、ついで市町村が計画を作るように努めるとなっている。

大津町では、計画を作るために18年度に策定会議を設けた。メンバーは図書館から2名、司書教諭1名、学校司書中学校2名、小学校1名であった。

計画は、5年間で実現可能性のある目標を入れたかったのが、学校図書館の情報化を入れることにした。

学校図書館の情報化は、学校教育課が毎年度実施計画に入れながら予算を自分たちでゼロ査定にし、実現を先送りにしていたためである。また、町の情報化を担当する総務課でも学校の情報化を目標のひとつに上げていたことも知っていたが、これも予算の関係で先送りにされていた。

大津町の子ども読書推進計画は、19年度から23年度までの5カ年計画としていた。

19年度は、情報化の準備の年度として、各学校でコンピュータ化する図書とそうでない図書を分けしてもらい、コンピュータ化する図書については学校ごとにバーコードの体系を整えバーコードを貼ることにしていた。おおづ図書館の方でバーコードの印刷を引き受けた。バーコード印字用のラベルについては学校教育課で消耗品費で購入してもらっ

た。

マークとコンピュータシステムについては、19年度から検討し、日本書籍組合のマークを使用し、宮崎の学校図書館システムを開発した会社からソフトを提供してもらうことにした。このソフトは既存のウィンドウズのパソコンで稼動するということがだったので、デモンストレーションをしてもらった。なお、各学校には図書室にパソコンはそれぞれ1台ずつ既に配置されてあった。

20年度に入り、日本書籍組合のマークと学校図書館の本を付き合わせデータ化する作業を各学校で行った。マークと学校図書館システムは、書店から本を購入しているので費用が発生しなかった。

学校図書館システムは町内の小中学校のネットワークを組んだものだったのでサーバーをおおづ図書館におくことにした。公共図書館のシステムと学校図書館のシステムは全く考え方が違うし、それぞれの利用者のプライバシーもあるので直接つなぐことはしなかった。各学校と図書館は光ケーブルの専用線をつないだ。

このようにして学校図書館の情報化を実施したが、町の振興計画の中に担当課が実施計画を持っていたことが大きかった。また、各学校には図書館を担当する職員がいたことも情報化が出来た要因である。さらに公共と学校の協力が日常的に行っていたこともある。

学校司書を配置する自治体は財政力ではなく、子どもの教育に読書がどのように影響するかということを知っている首長なり教育長が必ずいてそのために尽力をしたということがある。自治体の規模ではなく教育への思い入れなのである。

(元・町田市立図書館員 & おおづ図書館長・会員)

2011年度 第1回 文学館(主催)で楽しむ

おとなのためのおはなし会

7月21日(木)10:30~11:30

町田市民文学館 2F大会議室

プログラム

- * 町田ゆかりの作家「長谷川知子」 太田晶子
- * 「パンドラ」(ギリシャ神話) 小澤美代子
- * 「孝女ソノ」(町田の民話) 菊池とも子
- * 「王女メディアと王子クーサの物語」(イラクの昔話) 平田えり子

直接会場へどうぞ! 無料

保育あり (問: 町田市民文学館 ☎042-739-3420)



社会教育功労団体として

NPO法人まちだ語り手の会が

町田市より表彰されました!

去る5月14日(土)平成23年町田市表彰式が町田市交流文化センターで行われ、「貴団体は多年にわたり子どもと本を結ぶ活動に尽力し社会教育の振興に貢献されました」として、町田市長・石阪丈一氏より表彰状を授与されました。副賞は、何もなし、でした。(増山)

◎館長報告事項／守谷信二前館長の生涯学習部長就任に伴う退任挨拶と、後任館長の尾留川朗館長(図書館担当部長兼図書館長事務取扱)の就任挨拶があった。

1) 4月1日付けの図書館関係人事異動(専任、嘱託)の報告・・・専任職員は4名転出、定年退職4名。再雇用満了1名。転入2名(内1名は新入職員)。再任用職員4名。新規採用嘱託職員10名。

2) 2011年度予算の概要報告・・・図書館費 575,338千円(対前年度:5,013千円増)

文学館費 55,475千円(対前年度:2,832千円減)

図書・雑誌費 図書費:80,820千円(対前年度:3,380千円減)

雑誌費:7,992,880円(対前年度:175,000円減)

嘱託職員の時間外報酬が予算で認められるが、金額はわずかであり、通常業務の時間外には利用できない縛りあり。各種委員会やBMの交通事情による遅れ等に支払いを検討中。

3) 2011年度第1回町田市議会報告・・・一般質問で図書館に関して2件の質問あり

①町田市「Web 図書館」導入に関して／②リサイクル文化センター内への図書館(室)設置の要求

4) 教育委員会報告

(3/25)議案審議事項:町田市教育委員会事務局の組織等に関する規則の一部を改正する規則について・・・図書館担当部長を位置づける

報告事項:町田市立図書館資料受渡し事業実施要項の一部改正について・・・南町田連絡所の開館時間変更(7時→8時30分)に伴う改正

(4/8)議案審議事項:町田市文学館運営協議会委員・・・9名の委員を委嘱

5) 新鶴川図書館関係

3月23日 第5回鶴川駅前公共施設市民ワークショップ(最終回)

3月24日 第3回町田市鶴川駅前公共施設管理運営計画検討委員会

◎審議事項 町田市立図書館の運営理念と目標のあり方について(継続審議)

答申案を検討、6月答申を目標とする

・今年度は2012年度からはじまる長期基本計画(10年)と中期経営計画(5年)の策定あり。

・2012年度から生涯学習センターがスタートするその準備年でもある。(山口 洋)

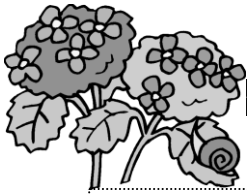
18回定例会報告 <5月31日(火)9:30～11:30 会議室が使えないためホールで>

◎館長報告事項・・・教育委員会議案事項、(仮称)鶴川駅前図書館の経営会議、(仮称)忠生図書館の経営会議の概要が説明された。鶴川駅前公共施設は「町田市鶴川緑の交流館」との仮称で、現在工事が進んでいる。忠生については2014年開館を目指しての進捗で、とりあえず一気に2館の分館が増えることは嬉しい。施設の運営などについては、今後とも注意を払っていきたい。

◎報告事項・・・5月21日に堺市民センターの事業仕分けが行われた／夏季の電力対策について工夫をしている／第二次町田市子ども読書活動推進会議に協議会から水越が委員として出ることにより
・2011年度図書館評価の取り組みについての説明を評価チームが来て行われた

ここで特に問題とされたのは、「利用者アンケートの実施」項目が「アンケートの実施が3年に1回の予定なので、今年度は評価対象としない」部分だった。前回の評価でも、大規模なアンケート実施は3年に1回だとしても、こまめに小規模のアンケートはできるし、それを業務に反映することは毎年可能なのでは、とのコメントが出されている。今回の「アンケートは実施しないので評価対象にしない」との取り組みに関して、多く複数の委員から強く異議が出された。これらを考慮し、また評価項目一覧が出される予定。今月中に意見をもらえれば、評価項目に反映させる余地があるとのことだった。

◎協議事項・・・引続き「町田市立図書館の運営理念と目標のあり方について」が検討された。委員長が前回の原案をさらに大きく加筆訂正して改訂案を作成してくれたおかげで、より明確に見えるようになった。引続き検討し、加筆訂正を入れて今期中に答申ができる見通しとなった。(水越)



ひろば

＜例会報告＞4/20(木)18:00-20:30
会報 158 号印刷 (16:00～)
伊藤、丸岡、桃澤、増山

出席者：石井、伊藤、久保、玉目、津田、手嶋
尾留川、増山、丸岡、水越、桃澤、山口、山本

● 2011 年度役割分担…どうぞ、よろしく！

代表(増山)、副代表(伊藤、玉目)、会計(石井)

庶務 会報作成(編集責任:増山、協力:全員)

会議室 & 印刷室予約・会報用紙準備(高松)

会報印刷(伊藤・玉目・増山・丸岡・桃澤)

会報送付(石井)、名簿作成(伊藤・増山)

ML管理(鈴木薫)、書記(丸岡・山本・津田)

会計監査(吉岡)

◎ 例会は今年度も第3水曜日 18:00～とする。

● 図書館友の会全国連絡会が、総務大臣に向けて「公立図書館の振興を求める要望書」、文部科学大臣に向けて「公立図書館、学校図書館の振興を求める要望書」を5月に提出する。本会も、賛同団体に加わることを確認。

● 新図書館長(図書館担当部長兼)尾留川氏より、自己紹介をしていただく。今年は町田市 of 第一次長期経営計画の最終年に当たる。これに伴い、新しい中期経営計画の策定が必要。早速すすめる会会員に。(参照:巻頭言)。

● 出席会員、ひと通り自己紹介

● 学校図書館への図書館専門職の配置がなかなか実現しない。6月提出予定だった請願は震災事情で9月に延期した。学校図書館の在り方の計画を、中期経営計画に入れることが大事との示唆あり。

● 協力いただいている図書館嘱託労組署名活動は、震災事情により、駅頭活動などが中止となった。しかし、4/8第二次集約分を都本部に送付。町田市全体で5,714筆(その内、1,665筆が図書館嘱託労組)が集まった。4/15 公務員連絡会地公部会が全国の第一次集約分、1,032,229筆を総務省に提出し

た。目標数にはまだ及ばず、最終集約の5/23まで引き続きご協力を！

● 11/28(月)13:00～「有山崧氏の生誕100周年を記念して」の前川恒夫氏の講演会が香雪記念館にて開催される。

● 会計報告は、監査をうけ来月に。

● かえて文庫は成瀬センターの建て替えが気になっている。検討委員会は単なる図書コーナーを考えているようだが、今までのように、文庫として一部屋を確保したいと考える。青空学童の跡地にかえでが入れないかとも思う。

● 市民病院の患者図書館は、さるびあ図書館からのリサイクル本を運用してボランティアで開く予定だが、やる人がいなく本も滞っている、とか。

例会報告 5/25(水)18:00-20:30

出席者：石井、伊藤、久保、鈴木、玉目、津田、手嶋、尾留川、増山、水越、守谷、山本

● 2010 年度会計報告(石井)、活動報告(増山)

● 第97回全国図書館大会が、10/13、14に調布グリーンホールをメイン会場に多摩地域で開催される。町田が市民主体の分科会「図書館を支える市民のカー図書館協議会・友の会・市民運動」を担当する。皆さんもスタッフに！

● 5/31(火)昨年11月に行った図書館まつりのビデオ上映および話し合い。市民が図書館と主体的に継続して関わっていくことが重要。今後話し合う。

● 近況報告から…図書館嘱託労の署名活動の最終集約は、507 枚 2344 筆、町田市全体で7002筆。市民の皆さんにもご協力いただき感謝している。また、5/28～6/5迄執行委員長が都本部の一員として相馬市などに災害支援に行く。図書館での募金10万円分約90冊の児童書を購入し、寄贈する/異動し、図書館との違いに戸惑いながら仕事をしている。利用者として図書館に来るのは新鮮(守谷)/中央図書館の嘱託とランチミーティングを行った。今後は地域館の嘱託とも機会を設ける予定。嘱託については形態も含めて話をしながら考えていきたい。図書館について、もちろん理念は大事だが、お金をかけた分、どういう形でフィードバックしていくか、どういう成果が得られるか、ロジックとして考えていく必要がある(尾留川)/異動先の高校で司書教諭として仕事することに(鈴木)/4月末、桃澤洋子さんのご主人が登山中の不慮の事故で逝去され葬儀が営まれた。心からご冥福をお祈りする。

あとがき

先日町田市表彰式(p6)で、市長は「市民協働型都市を目指す」と式辞で述べた。官は？市民のサポートに回るといふこと？図書館は新館長を迎えて、市民がサポートしながら、官民協働で図書館発展のための施策を推進して欲しいと願っている。(M*)

子どもと本と自然をつなぐ夏休み特別企画

「うみのダンゴムシ・やまのダンゴムシ」

写真上映とおはなし 皆越ようせい さん

7月24日(日) 13:30～16:00

町田市立中央図書館 6F ホール

(大人500円・子ども200円)

直接会場へどうぞ！

共催：野津田雑木林の会・すすめる会

協力：町田市立中央図書館

問：久保(045-961-5045)